

ちちぶ定住自立圏との連携概要書

地域住民の福祉向上と地域振興を図る

ちちぶ定住自立圏



ちちぶ定住自立圏とは、人口減少等に対応するため、生活圏が同じ市や町が協力して行政サービスを行う仕組みです。

秩父地域の秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町の1市4町では、平成21年9月に協定を締結し、ちちぶ定住自立圏をスタートさせました。

それぞれ1市4町が事業費を負担し、ちちぶ定住自立圏として事業を実施している。

現在、救急医療体制の充実、観光の促進、有害鳥獣対策、地域ブランドの確立と特産品の販売促進、交流・移住促進事業等20項目の事業を実施している。

秩父地域の概況

< 秩父地域の概況 >

●秩父地域は、概ね駅・商店街・住宅地の秩父市中心部、周辺農村部、中山間地部、高地部に分けられ、農林関係では日本の縮図ともいえる地域である。秩父圏域は埼玉県の西端に位置し、都心から比較的近く80km以内である。主な交通手段として、所沢・飯能方面からは西武鉄道・国道299号、熊谷方面からは秩父鉄道・国道140号がある。その結節点が秩父市中心部である。西武鉄道の池袋駅から西武秩父駅まで特急で約1時間20分と、都心部から容易に行ける距離にある。

●秩父圏域の人口は平成22年時点で約10万8千人。これが、平成32年には10万人を下回り、さらに、平成52年には約7万人となる人口推計が出ている。

●昭和45年4月に秩父広域市町村圏組合が発足し、現在、ごみ処理、消防、水道など10事業を1市4町で共同処理している。

●秩父地域には、日本酒、焼酎、ワイン、ウイスキーの醸造所・蒸留所もあり、さらに、ビールの醸造所新設も模索されている。



東京農業大学との関係

1. 秩父地域の活性化と荒川の上下流交流推進の為、秩父ダム関係者、埼玉県、ちちぶ定住自立圏の1市4町、民間団体等で組織する「荒川ビジョン推進協議会」活動を主導（H16年度～）
秩父市の森林・林業政策の事業推進アドバイザー（地域創成科学科 宮林茂幸教授）
2. 小鹿野町での食料環境経済学科国際農業貿易研究室による研究合宿約180名参加（平成24～25年度）
（食料環境経済学科 立岩寿一教授、菅沼圭輔教授、野口敬夫准教授）
3. 秩父市布里田中地区で、中山間地域ふるさと事業調査研究事業での学生延べ251名による調査・研究（H25～28年度）（農学科 長島孝行教授）
4. 秩父まちづくり協議会の講演会で「訪問かいこ」事業の講演（H28年度）
（バイオセラピー学科 川嶋舟准教授）
5. 秩父おもてなし観光公社の講演会で「地域活性化」講演（H26年度）
（地域産業経営学科 木村俊昭 教授）

東京農業大学出身者

- 社会福祉法人 秩父正峰会理事長 吉田廣文（昭和47年林学科卒）
（東京農業大学校友会埼玉支部 埼玉常盤会 秩父支部長）
- 元大滝村長、株式会社秩父開発機構 代表取締役社長 山口民弥（昭和48年林学科卒）
- 武甲酒造株式会社 代表取締役 長谷川浩一（昭和55年 醸造学科卒）
- 株式会社ベンチャーウイスキー 代表取締役 肥土伊知郎（昭和63年 醸造学科卒）
- 秩父市役所商工課長 田端保之（昭和61年 造園科卒）
- 秩父市役所森づくり課 前島香保（平成22年 環境緑地学科卒）

今後の交流の可能性

★交流の方向性

- ・ちちぶ定住自立圏は大学の課外授業や研究等の要望に最大限の支援、協力
- ・秩父地域でインターンシップや就農・就職を希望する学生にも最大限の支援、協力

▶地域づくり

- ・秩父エリアの豊富な観光資源を活かした地域活性化の取り組みへの協力
- ・秩父ジオパークでの地域固有の地質や地理、生態系、歴史・文化など地域資源を素材とした活動の推進

- ・ちちぶブランド化を目指した商品開発等の推進

▶環境づくり

- ・森林の保全・活用についての助言及び推進
- ・有害鳥獣害対策への協力

▶その他

- ・教員による各種講演会等の参加、地域イベントへの学生等参加

◆東京農業大学の窓口教員

農学科 長島孝行教授、地域創成学科 宮林茂幸教授、食料環境経済学科 立岩寿一教授

◆ちちぶ定住自立圏推進委員会事務局担当者

秩父市市長室地域政策課（担当 課長 引間淳夫）

〒368-8686 埼玉県秩父市熊木町8-15

☎0494-22-2823 E-mail: seisaku@city.chichibu.lg.jp

埼玉県秩父地域振興センター：地域振興担当（担当 地域調整幹 持田正美）

〒368-0042 埼玉県秩父市東町29-20

☎0494-24-1110 E-mail: t241721@pref.saitama.lg.jp